

# 「選択する未来」委員会報告

平成27年1月30日

三村明夫  
「選択する未来」委員会 会長

現状のままの未来

- 50年後—3分の2程度の人口規模へ縮小、高齢化率は40%
- 50年後—マイナス成長が定着
- 地域が疲弊化、日本全体の多様さが消失

改革・変革を経た未来

- 50年後—1億人程度の安定した人口構造
- 50年後—実質GDP成長率1.5~2%維持
- 東京—極集中の反転、地域の特色を活かした豊かな成長・発展

《5つの目安》

- 人口…年少人口、生産年齢人口
- 経済…GDP成長率
- 雇用…女性・高齢者就業率
- 地域…人口増減等
- 国際…プレゼンス

《15の先導的取組》

経済

- 学びの機会の多様化
- 異能、異才の発掘、育成
- 個性的な研究開発、ビジネス化支援
- 女性、高齢者の活躍推進
- 人口急減克服の効果分析

地域社会

- 従来の姿にこだわらない取組推進 (集約・活性化、東京圏の少子化対策、介護政策)
- 新しい絆を起点にした取組推進
- ICTを活用したブレイクスルー
- 地域の資金循環

人口

- 少子化対策 2020年目途に倍増 (社会保障の再構築)
- 地域の実情に応じた拡充
- 少子化対策の検証・評価
- 妊娠、出産等の知識普及
- 企業による子育て、若者支援
- 教育への社会的支援

《3つのコンセプト》

- 「未来」を「人口」に結び付けて描く
- 「つなぐ力」と「開くこと」を重視する
- 「選択肢」を広げる「多様さ」を活かす

年少人口減少が止まる

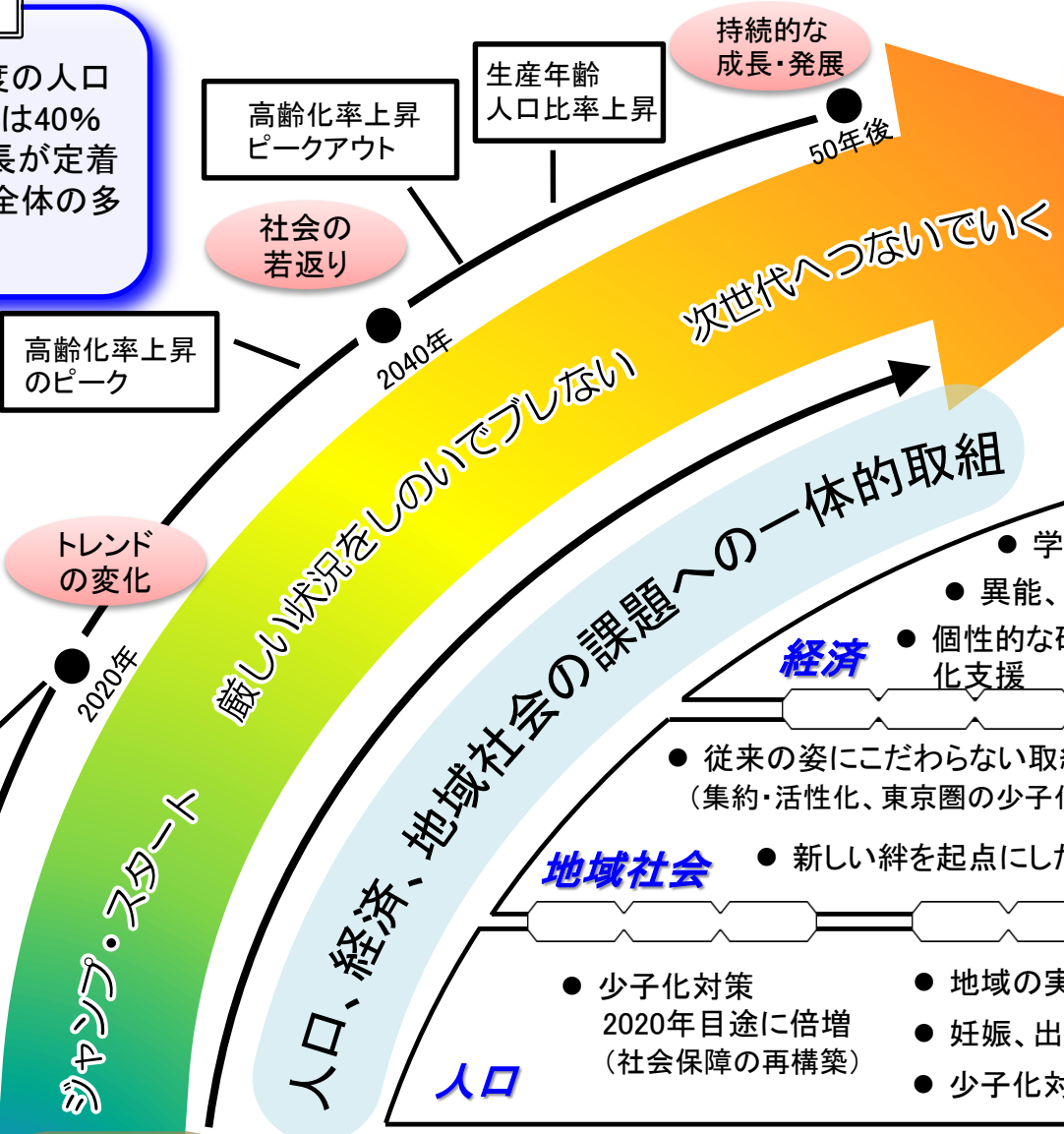
イノベーションによる生産性の向上

少子化対策倍増

地方創生

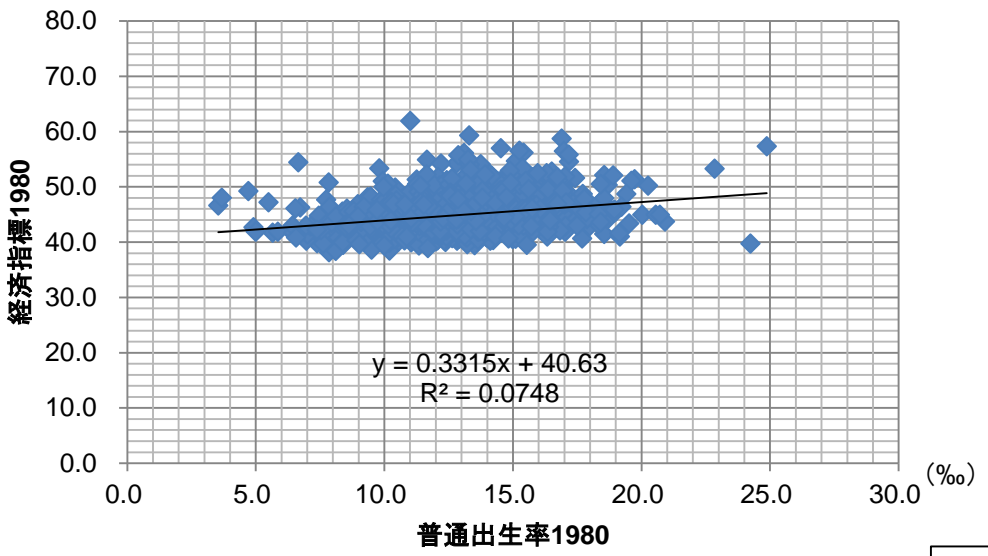
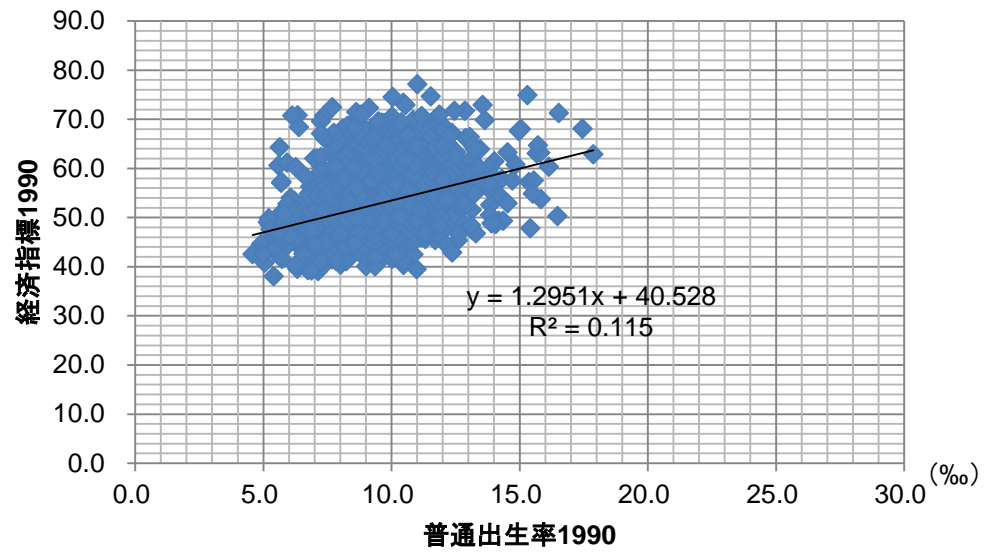
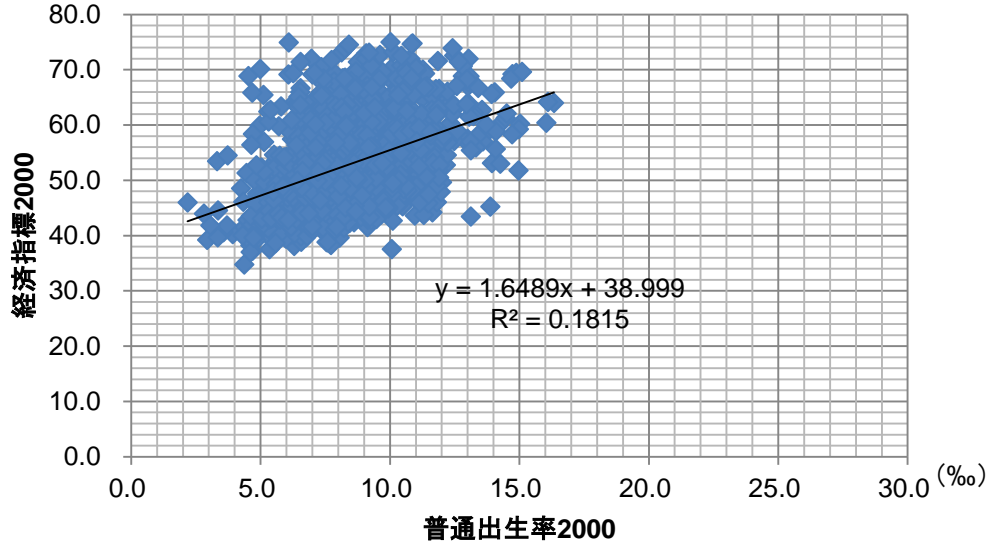
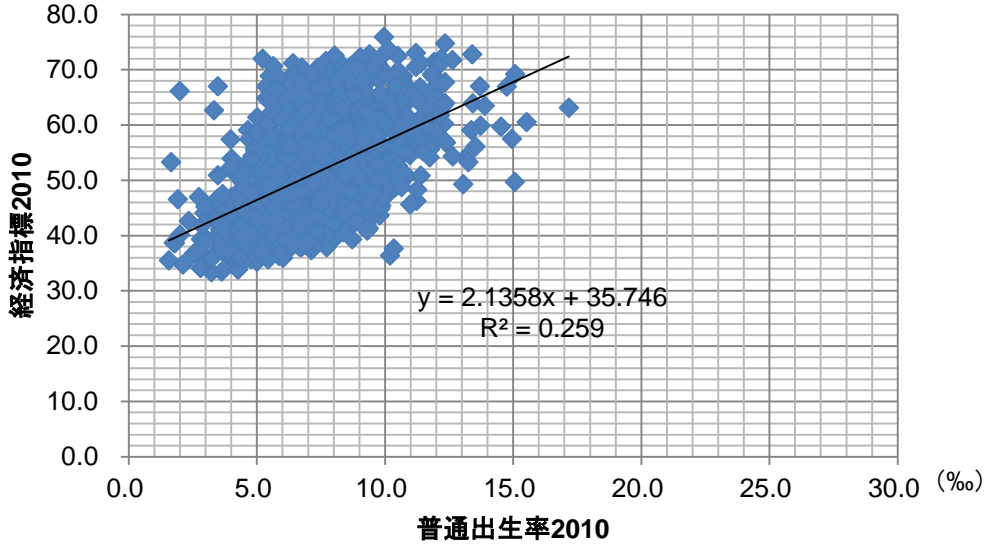
脱デフレ経済再生

慢性的なデフレ 30年来の少子化 地域疲弊



# 人口指標(普通出生率)と経済指標の関係

	2010	2000	1990	1980
相関係数	0.511	0.427	0.341	0.274



# 人口指標と経済指標の高い地域(2010年時点)

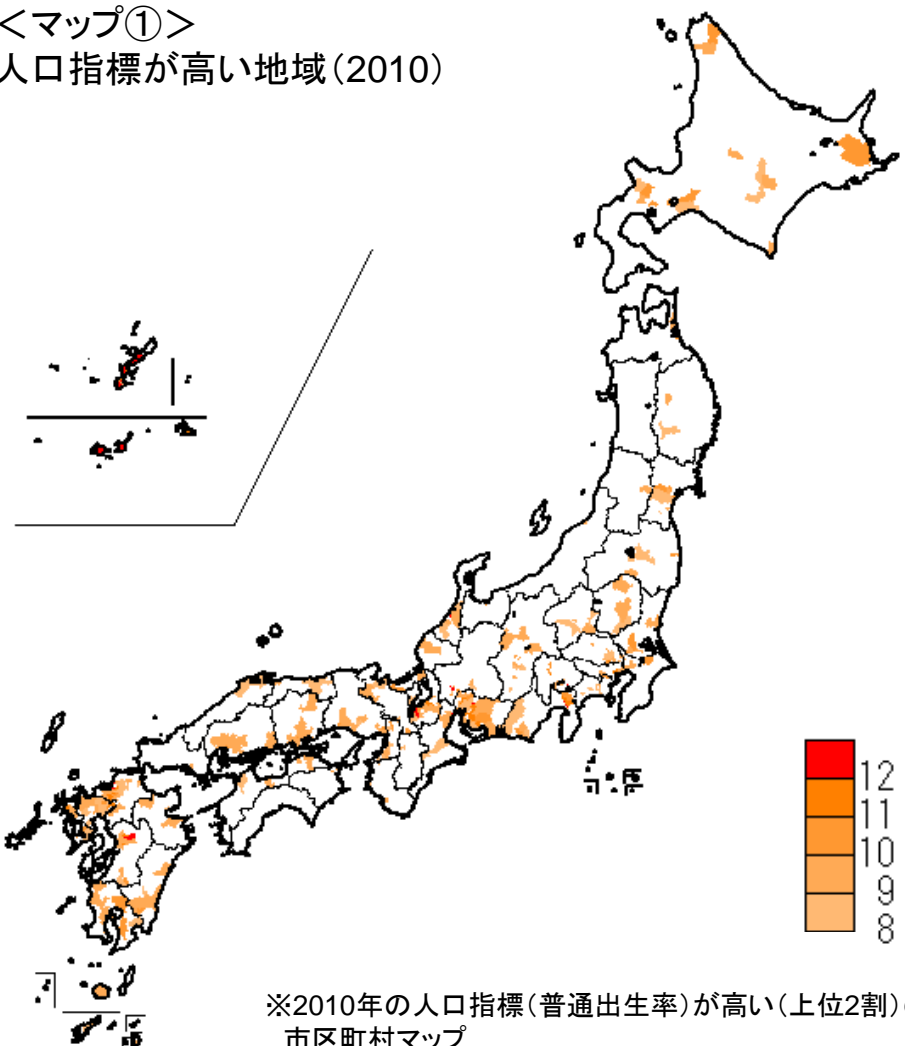
人口指標が高い、かつ、経済指標が過去ないし全国平均より上向いている地域 (マップ①・マップ②ともに暖色の地域) [206] = 59.0%

人口指標が高い地域 (マップ①の暖色の地域) [349]

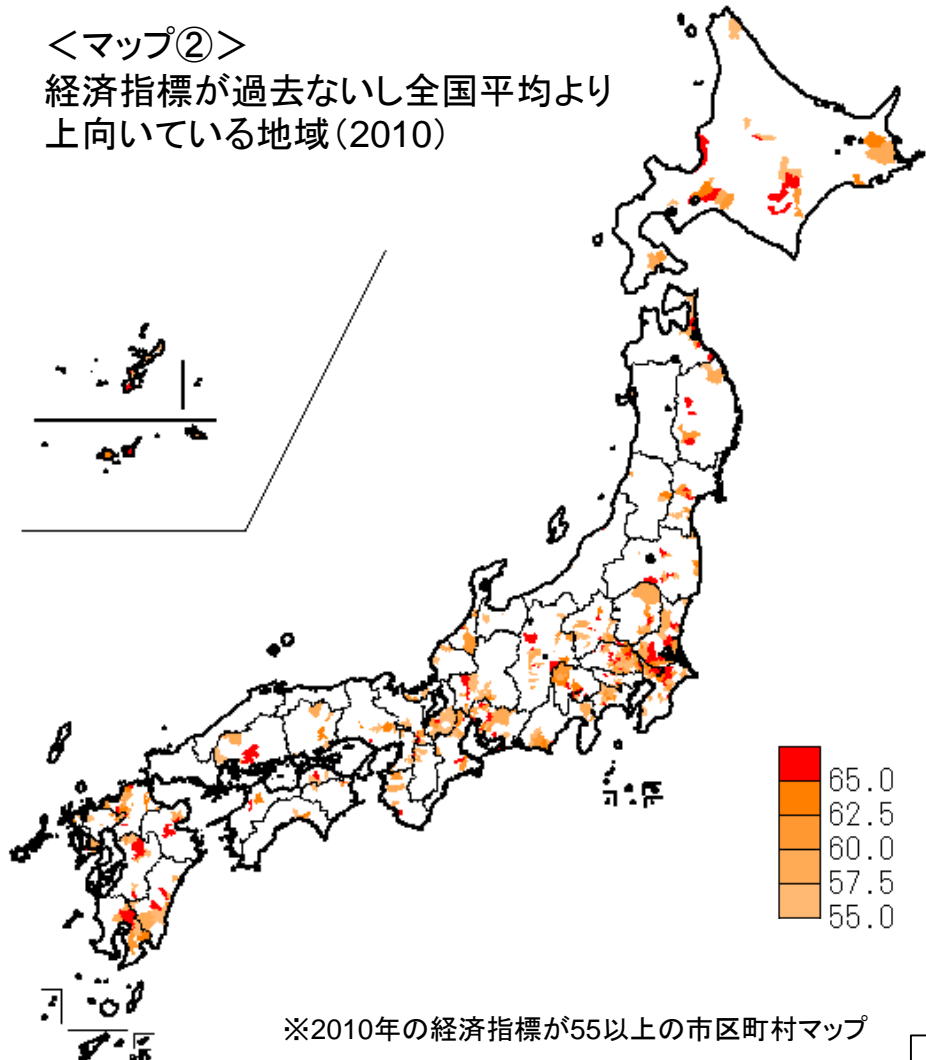
人口指標が高い、かつ、経済指標が過去ないし全国平均より上向いている地域 (マップ①・マップ②ともに暖色の地域) [206] = 39.2%

経済指標が過去ないし全国平均より上向いている地域 (マップ②の暖色の地域) [525]

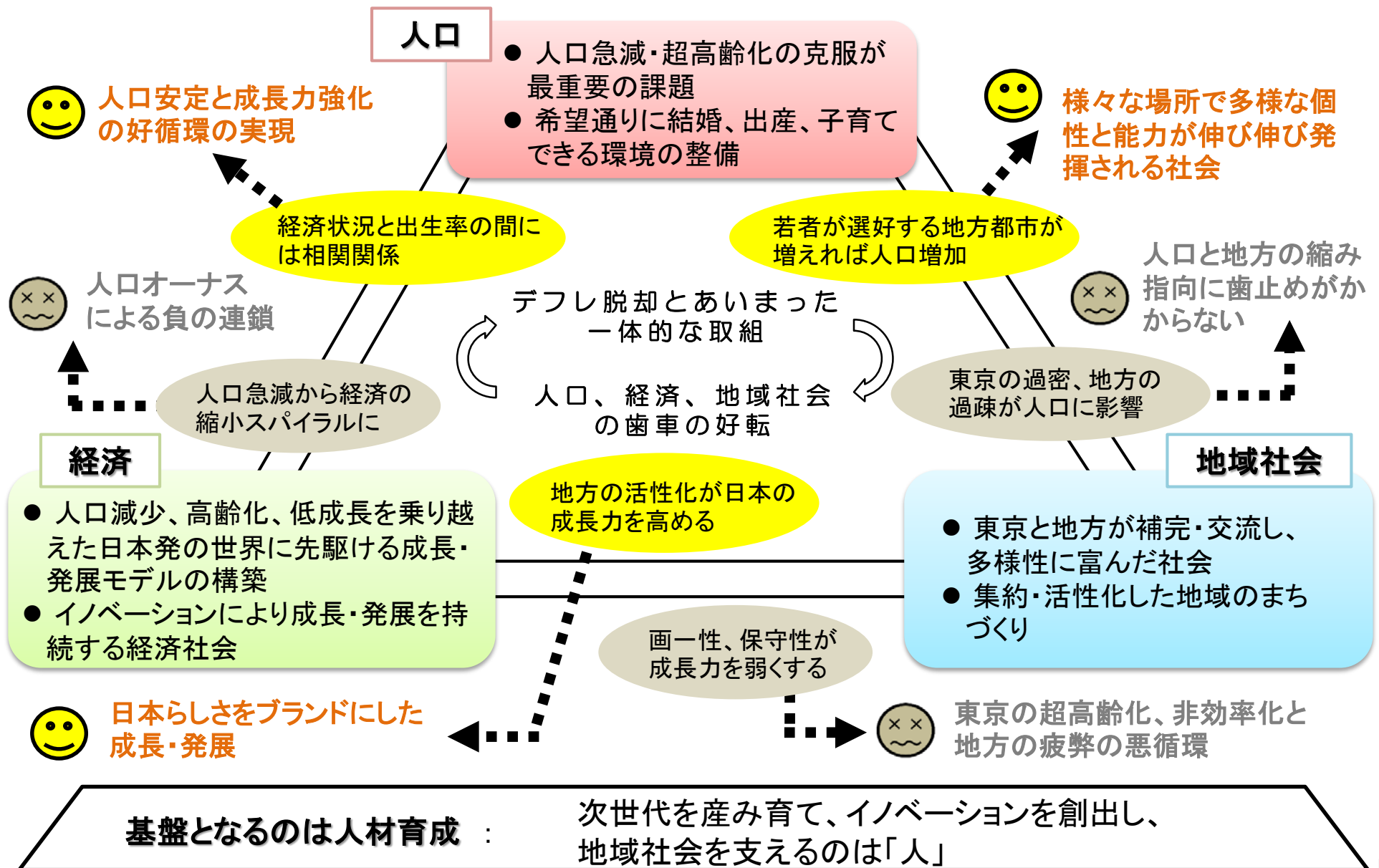
<マップ①>  
人口指標が高い地域(2010)



<マップ②>  
経済指標が過去ないし全国平均より上向いている地域(2010)

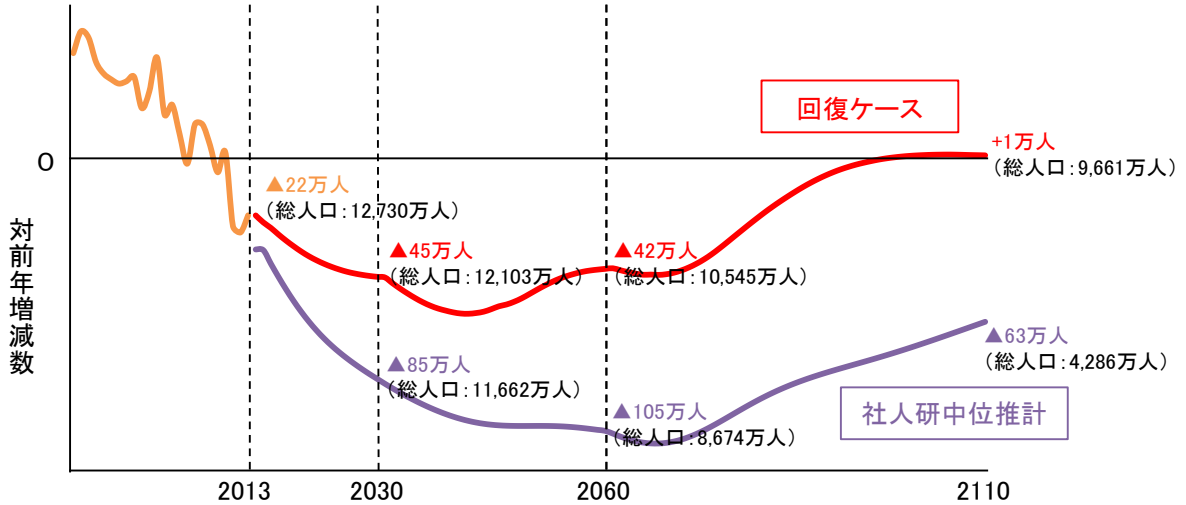


# 人口、経済、地域社会の課題への一体的取組

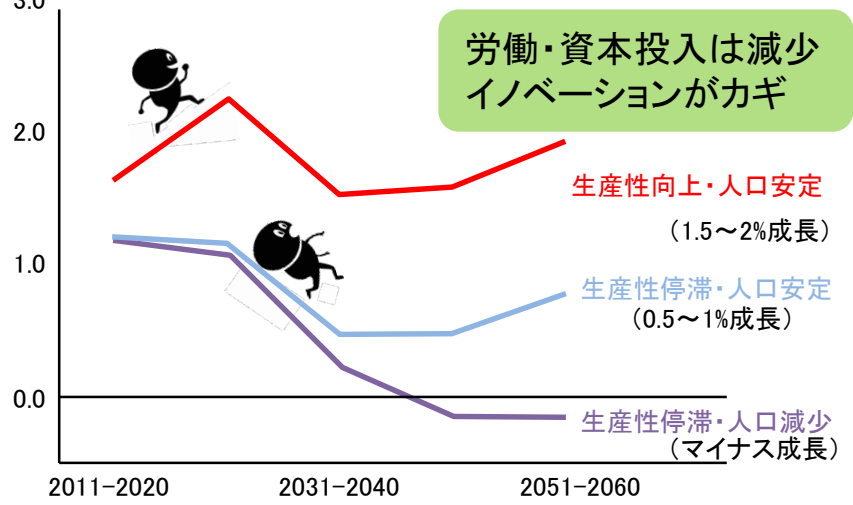


# 人口、経済の未来像

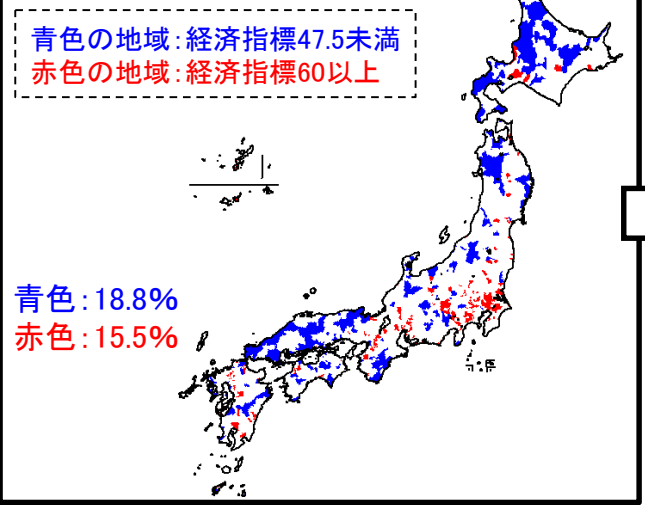
## 総人口の増減の推移



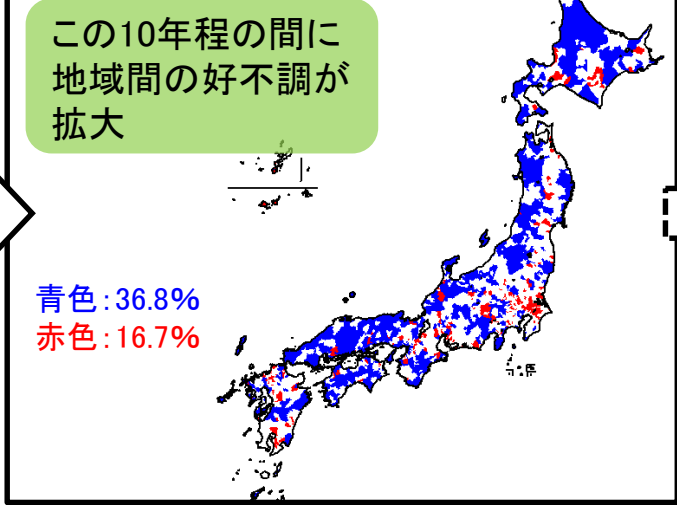
## 実質GDP成長率の推移



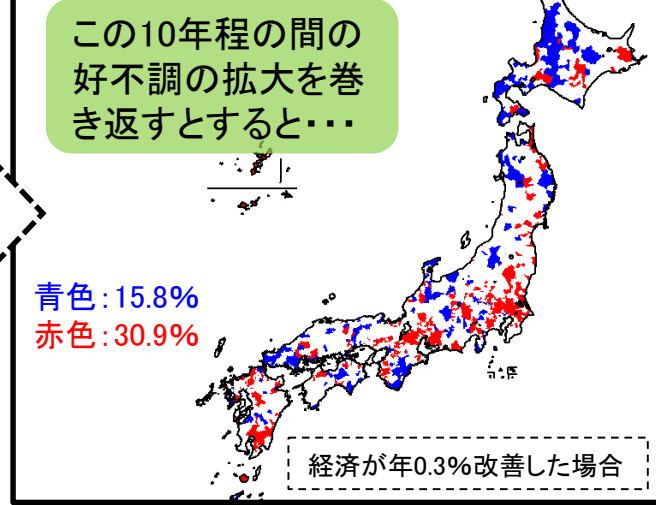
## 1990年の地域経済



## 2010年の地域経済



## 50年後の地域経済



○総人口の増減の推移の回復ケースは、2030年までに合計特殊出生率が2.07に回復した場合の試算値。社人研は、国立社会保障・人口問題研究所の略。  
○実質GDP成長率の推移において、「生産性向上・人口安定」は、総人口が回復ケースで推移し、かつ生産性が1%超向上した場合。  
「生産性停滞・人口減少」は、総人口が社人研中位推計で推移し、かつ生産性が停滞した場合。  
○地域経済は、市区町村別の工業・商業・農業統計等から算出した合成指数の偏差値。50は過去30年間の全国平均。  
50年後の地域経済は年0.3%ずつ改善した場合を図示(過去10年間は年0.3%ずつ悪化)